

予算議案を 問う

一般会計予算議案に対する討論(要旨)

3月25日の本会議で平成31年度一般会計予算議案に対する表決に先立ち、各会派等を代表して賛成・反対の討論が行われました。討論を行った順番で、各会派等が一定のスペース内で自由にまとめたものを掲載しています。

賛成

未来と今必要な事業を織り交ぜた予算を評価

平成31年度予算は一般会計461億2,510万6,000円、特別会計の6会計で268億3,491万9,000円、全会計総額728億2,982万1,000円となりました。国分寺駅北口再開発ビルの保留床処分に伴う歳入が135億円計上された平成29年度より縮小されたとはいえ過去2番目の規模の予算です。また、これまでと同様に歳入歳出ともにゼロベースから見直して予算編成をされたことは評価します。しかし、ふるさと納税の影響による財源の流出、大幅な交付金収入の減が財政を圧迫しています。人口は増加、就労人口が伸びつつも、高齢化の波、子供たちも増えたことから、子育て支援施策に伴う扶助費の増加など、長期的には、厳しい状況は続く事が想定されます。今後も財政健全化をはかる財政運営をお願いします。今後、公共施設の整備、新庁舎建設、仮称リサイクルセンターの建設、社会保障費の増大等、大きな財政需要があることは明らかです。今予算は、財政調整基金を一部取り崩しての予算編成となりましたが、今後の事も踏まえ基金取り崩しが経常化することがないように求めます。

節目の年、平成31年は新元号となる年です。そして、市制施行55周年の年であり、友好都市である飯山市においては65周年にあたり節目の年として「市制施行55周年記念企画展」を飯山市を代表する人形作家の記念展覧会「高橋まゆみ人形展」が開催されます。今後の友好都市の理解とさらなる交流の促進に貢献するでしょう。また、中央線開業及びJR国分寺駅開業130周年を記念し

た連携イベントはまちの賑わいに貢献し国分寺の魅力発信に繋がるものと期待します。

政策的経費を見ますと速やかに対応を求められた事業が見られます。夏の猛暑対策として行う小・中学校体育館への空調設備、冷房設備の設置や教育ICT環境整備、高齢・障害・子育て・生活困窮などの複合的な課題に対応するための地域力強化と多機関連携による包括的支援体制を構築する事業、高齢者保健福祉計画、介護保険事業計画策定事業、介護人材確保・育成事業、はいかい高齢者個人賠償責任保険事業など子供と高齢者に手厚い予算であります。特に小・中学校体育館への空調・冷房設備設置に関しては近年の夏の猛暑を考えますと熱中症対策として必要な事業あり、高く評価いたします。しかしながら同様の整備事業の前例が見られないことから先進的取り組みとなり、今後の中学校体育館の空調設備整備が二重投資にならないよう、効果測定はしっかりと検証するべきです。

国分寺市ビジョンに関する予算として妊娠期から子育て期の切れ目ない支援体制の構築として子育て世代包括支援センター事業など子育て、教育環境の整備事業であり評価します。

地域振興では東京2020大会及びラグビーワールドカップを盛り上げるためのスポーツ体験イベント等の実施、ベトナム関係者との交流を進めるオリンピック・パラリンピック推進事業、けやき運動場人工芝化及びバリアフリー化改修工事など必要事業であります。

自民党新政会 (賛成8名)

丸山 哲平 吉田りゅうじ
尾作 義明 田中 政義
本橋たくみ 新海 栄一
尾澤しゅう 須崎 宏



尾作 義明

「こくベジプロジェクト」は農業、商業、観光の各施策として、地域振興に欠くことの出来ない事業に成長しています。今後も期待します。

保健・福祉では認知症対応型共同生活介護、地域密着型サービス拠点施設等整備補助事業、家計改善支援事業では生活保護に至る前の段階にある生活困窮者のうち家計に課題を抱える相談者を支援するものであり進めるべき事業です。

くらし・環境ではクラウドファンディングによる国分寺駅北口交通広場整備、北口地下自転車駐車場整備は予定通り進行することを望みます。また、西国分寺駅北口地区周辺まちづくり推進事業は地域の方々の期待が強く、また広まっています。地域の声を生かし、未来に繋がる計画の策定に期待します。

防災防犯については地域活性化包括連携協定によるコンビニエンスストアへのAEDの設置、ブロック塀の耐震診断助成事業、特殊詐欺対策電話機購入費補助など市民生活に寄り添った安心・安全のまちづくりであると評価いたします。

公共経営では国分寺市新庁舎整備基本計画策定事業が挙げられます。市民の生命、財産を守る拠点としての新庁舎建設はとても重要な事業です。丁寧に着実に進めることを望みます。

個々の事業は未来に繋がる事業であり評価し、その必要性を認め賛成といたします。

賛成 反対

「ありき」ではなく、市民目線の政治を！

「誰一人取り残さない！」SDGs 予算について。予算規模は前年比11億6912万円増の461億2510万6千円となり、財政調整基金(貯金)を4億3811万8千円取り崩すこととなった。福祉や保育所整備などによる歳出の増加は致し方ないものと考え、収支均衡を目指し、必要な分野にはしっかりとお金がまわっていくメリハリのある財政運営を追求することを強く求める。来年度予算案は国連のSDGsの考え方を取り込んだ編成方針のもと、その理念に沿った施策展開が随所に見られた。特にLGBTなどの性的マイノリティに対する取組みは教育分野も含めて、評価をするところである。

学校体育館のエアコン設置について。昨年の酷暑をうけ、来年度の第1中学校を皮切りに、5つの中学校には順次設置をしていくとの表明が行われた。また、小中学校とスポーツセンターなどの施設に冷風機の設置を予算化したことはその迅速な対応を大きく評価する。エアコンについては1中での効果測定を十分にしたらうえて、残りの4校も可能な限り速やかな設置を求める。また、小学校体育館へのエアコン設置も、体育館の構造上の問題など課題は多くあるが、防災上の観点からも検討を進めて頂きたい。

子育て施策について。保育所増設への市の努力は認めるところであるが、今年度の都内ワーストの待機児増加率という状況を謙虚に受け止め、待機児解消に向け、更なる努力を。併せて学童の増設、ニーズの高い高学年の受入れへの

検討、在宅育児者への一時保育等の支援、虐待撲滅への取組みも更なる充実を求める。

もとまち保育園民営化については、当会派の及川議員から保護者への説明が遅れたことによる影響について厳しく指摘がなされた。来年度予定されている、しんまち保育園民営化に際しては、もとまち保育園を巡る一連の混乱を教訓に、議会や市民への早期の説明と、民営化のメリットが活かされる進め方を強く求める。計画の遅滞ない履行ということにこだわらず、「安心して子育てし、働き続けることのできる街づくり」との視点を第一に考えることを要望する。

高齢者、障がい者施策について。認知症対策として、はいかい高齢者個人賠償責任保険事業の開始は他市に先駆けての取組みとして評価をする。利用がないことが一番であるが、イザという時に家族の負担を和らげるためには重要な取組みであり、国分寺市から波及していくことを期待する。また、障がい者の移動支援について、ヘルパーの報酬単価引き上げが行われることも障害をお持ちの方が自分らしく生活していくための前向きな内容と捉えている。移動支援についてはまだ課題・要望が多くある。引き続き当事者の皆さんと協議をし、更なる改善を求める。道路関係事業について。西町3丁目交差点の改良工事が前進し、渋滞の解消、歩行環境の改善が図られることは大きく評価する。できる限りの工期短縮への努力を求める。

職員育成について。人材育成基本方針は新たな

国分寺政策市民フォーラム (賛成3名) (反対1名)

及川 妙子 星いつろう

だて 淳一郎

皆川りうこ



だて 淳一郎

時代の市職員として求められる資質について謳われている内容であり、積極的に議会や市民、そしてこれから国分寺市の職員を目指す若い方々に示していくべきものである。また、この4月から施行される改正入管法により、外国人の定住者が増加することが見込まれる。本市においても、国際化の進展に対応した窓口等の業務、語学スキルの向上など、職員に必要な素養は増えていく。そういった観点からも、年齢問わず、人材育成の全庁的な取組みが更に必要であり、対応を求める。

庁舎建設について。庁舎の建て替えの必要性は認めるところであるが、大事な観点は「ありき」で進める事が無いようにという事である。大きなテーマのため、リーダーシップをもって決めていかないと前進しない事は承知している。しかし、それが行き過ぎれば市民不在となる。自治基本条例の精神に基づき、できる限り多くの市民に寄り添った形で進めるべきであり、決断に際しては市長自らが市民に説明し、意見を伺うという場面も必要になると考える。「結論ありき」ではなく市民目線での検討が必要だ。まもなく平成が終わり、新しい時代が到来する。これを一つの契機に国分寺市も様々な面で次のステージに上がっていきけるように引き続きの努力を期待し、賛成の討論とする。